

## しらとり保育所

### 1 施設を取り巻く現状と課題

しらとり保育所は創立 59 年となり、保育所のあり方は時代とともに変化してきた。少子化・核家族化の進行、保護者の働き方の変化や子育て観、育児力の低下等により保育所へのニーズが多様化している。個別に支援が必要な家庭や児童も増加しているため、細やかな対応を求められている。また、近年は地震等の災害、不適切保育や虐待等の子どもに直接関わる問題、保護者や職員に関わる事案等、様々な事象にリスクがあることを想定し、危機管理を強化することが必要不可欠である。

松江市の出生数は年々減少している状況にあるが、共働き世帯が多く、入所希望者は比較的多い。0,1 歳児クラスは年度の前半の産休育休明けの入所で埋まっている。2 歳児以上のクラスで転居や幼稚園等への移籍があると、募集してもその後の新たな入所希望は少ない状況がある。定員の弾力運用により 100%から 120%を超えない範囲で受け入れることはできており、利用率はある程度確保できているものの、松江市の年度当初の待機児童は昨年度からゼロであり、楽観視できない。

松江市ではこどもまんなか社会の実現に向けた支援策として、「幼児教育こどもまんなかビジョン」が策定され、具体的な実践が始まっている。小学校との関わりでは「幼保小架け橋プログラム」を通じた連携強化が推進されている。当所においても保育内容や行事の在り方、小学校や地域との関わり等について検討を進め、職員の保育観の共有を図っている。職員は、豊富な経験と高い専門性で充実した保育を提供しているが、新たな保育課題や個別支援等に対応していくため、さらに研鑽を積んでいるところである。保育の質の向上と子育て支援の充実に取り組むことで入所希望につなげるとともに、利用できる補助金制度の活用や支出の見直しを行い、安定した経営ができるようにする必要がある。

働きやすい職場となるよう ICT 化を進め業務の効率化に取り組んだことで、ノンコンタクトタイムをとることができる体制になりつつある。離職率は低いが、長期休暇の代替職員の不足等で職員の業務負担が大きくなる場合がある。職員間で協力し合う風土があるが、今後は ICT の活用だけでなく、業務の簡素化や職場環境について皆で考えていくことで健康的で働きやすい職場風土をつくっていく必要がある。

今後も子どもの最善の利益を考慮し、社会のニーズに応えながら地域に根差した保育所運営に取り組んでいく。

## 2 施設の実施策と取組の方向性

### (1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

#### ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者 QOL を高める。

実 施 策	保育の質の向上
現 状 と 課 題	<p>松江市では、「幼児教育こどもまんなかビジョン」についての実践が始まっている。研究テーマを設定し、職員の保育観の共有を図っているが、さらに研鑽を積む必要がある。</p> <p>また、子どもの主体性を育むことのできる環境づくりに継続して取り組んでいる。身近なところから環境問題を考えていくことが社会的に促進されているため、幼児期から実施可能なことに取り組んでいけるよう検討している。</p>
取組の方向性	<p>① 研究テーマに基づいた保育を実践するための体制を整え、職員が主体的に研究に継続して取り組む。</p> <p>② 子どもの主体性を大切にした保育を実践する中で、子どもの興味や関心、発達や生活の様子に合わせた環境づくりに継続して取り組む。地球環境を意識することができるよう子どもたちと一緒に学び、実施可能な取組を行う。</p>

実 施 策	子育て支援の充実
現 状 と 課 題	<p>保育所保育指針には、子どもへの保育の提供だけでなく、保護者への子育て支援についても保育士の役割として明確に示されている。保護者等に当所の保育方針を理解してもらい、共に子育てをしていくためには、行事等を通して保育方針を示していくことが必要である。保育所へのニーズが多様化している中、個別に支援が必要な家庭や児童も増加しているため、細やかな対応を求められている。</p>
取組の方向性	<p>① 保護者の子育て力を支援していけるよう、育児講座や育児情報発信等で子育て力の強化を図る。</p> <p>② 子どもが主体の取組となるよう、様々な行事の在り方について保育方針や保護者のニーズをもとに検討し、保護者の理解を図る。</p> <p>③ 個別に支援が必要な家庭や児童について、専門機関と連携し細やかに対応し、保護者と共に支援を検討する。</p>

#### イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	リスク管理の徹底
現 状 と 課 題	<p>地震等の災害、不適切保育や虐待等、様々な事象にリスクがあることを想定し、危機管理を強化することが必要不可欠である。また、規定や</p>

	重要事項を見直し、保護者も職員も互いの安全を確保することができるように対策が必要である。
取組の方向性	① 法令やガイドラインの改正等に伴う各種マニュアルの整備、様々な状況を想定した訓練等を行い、危機管理の徹底を図る。 ② 保育の振り返りを行い、不適切保育を防止する。

実施施策	安全で衛生的な環境づくり
現状と課題	重大事故には至っていないが、成長過程においてケガが発生することは避けられない。月毎の事故検証の結果、転倒時に手がつけなかったことによる顔面や頭部のケガが増加していることが分かった。保育所での取組や活動について保護者の理解を得るとともに、事故防止対策を強化する必要がある。 食物アレルギーへの対応や誤飲・誤嚥等、食に関する事故については、生命の維持に直結する内容であるため、より高い意識が必要である。
取組の方向性	① ヒヤリハットをもとにした安全な環境づくりと効果的な事故検証、職員研修及び児童や保護者への安全教育と体づくりの促進を行い、事故の発生を防止する。 ② 乳幼児の保育環境や食事環境の安全と衛生を保ち、子どもの成長や発達を支える。

ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実施施策	ICTの有効活用
現状と課題	保育アプリを導入し活用を進めたことで、情報をタイムリーに発信したり共有したりすることができるようになった。保護者がより使いやすく、便利になるよう、さらなる活用を検討している。また、様々なメディアが溢れている現代において、保育所においてもメディア教育を行う必要性も感じている。
取組の方向性	① 保育内容を保護者と共有し保育への理解を図る等、スマートフォンや保育アプリの有効活用を推進する。 ② 児童や保護者にメディア教育を行い、職員もメディア教育について学ぶことで子どもの健やかな育ちを支える。

(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

実施施策	採用活動の充実
現状と課題	離職者が少なく求人がないことも多いが、年度中途に代替職員が必要

	<p>となった場合には保育士や調理員の確保が困難である。全国的に保育士不足で以前に比べて他法人との競争が激化し、特に非常勤職員や準職員の求人に対しては応募が出にくい状況がある。</p>
取組の方向性	<p>① ハローワーク、保育人材バンクと連携を取り、情報収集を行う。</p> <p>② 実習生の受け入れを計画的に行う。</p>

実施施策	<p>広報活動の強化</p>
現状と課題	<p>広報活動として、ホームページでの情報公開と広報誌「しらとり通信」の発行を行っている。内容に変化が少なく、ホームページの閲覧数やしらとり通信の配布先が多くない状況である。</p>
取組の方向性	<p>① 法人の PR チームと連動してホームページや広報誌等の在り方を検討し、活性化する。</p> <p>② 地域イベントへの積極参加や取材依頼等、テレビや新聞等のメディアを通して当所の魅力を発信する。</p>

イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

実施施策	<p>職員の専門性の向上</p>
現状と課題	<p>外部研修や所内研修の機会が多く、主体的に参加する職員が増えている。保育士等キャリアアップ研修については、正規職員の受講を先行して行ってきた。準職員や非常勤職員についても学びが必要な分野を見極め、キャリアに応じて希望する職員が受講できるように取り組むことで、一人ひとりの専門性を向上させる。</p>
取組の方向性	<p>① キャリアアップ研修等の学びを通し、職員一人ひとりが役割をもって十分に専門性を発揮する。</p> <p>② 外部研修及び所内研修の効果的な受講を促進する。</p>

実施施策	<p>職員交流の活性化</p>
現状と課題	<p>職員間の関係性は安定しているが、業務を一人で抱えたり負担を感じたりすることがある。保育の語り合いや意見交換会等を通し、互いの気付きを言葉にする機会をもつようになってきた。今後も情報交換を行うことで負担軽減を図る必要がある。</p>
取組の方向性	<p>① 新任職員へのサポートを強化し、安心して働くことができるよう取り組む。</p> <p>② 職員一人ひとりがやりがいをもって業務にあたることできるよう、意見交換や相談できる機会をつくる。</p>

## ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実施施策	職場環境の改善
現状と課題	チーム保育について職員間で学び合い、チーム力を強化してきた。職員の定着率が高く協働して取り組むことができているが、職種間やクラス間等別の場で業務を行うことが多く、互いの理解を図りにくいことがある。
取組の方向性	① 検討チームや担当が中心となり、所内の連携をとりながら業務を進める。 ② 業務の見える化を推進するとともに、レクリエーション等を通して職場内のコミュニケーションを活発にする。

実施施策	心身の健康管理
現状と課題	保育業務が多岐にわたり、責任感などからストレスを感じやすい。休暇の取得率は高い水準であるが、ワークライフバランスについて職員一人ひとりの理解を深めていきたい。
取組の方向性	① 健康的で働きやすい環境となるよう、ワークライフバランスやメンタルヘルス、ハラスメントへの理解推進と対策を継続して行う。

## エ ICTの活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実施施策	業務の効率化
現状と課題	保育アプリを導入して3年が経過し、毎日の連絡帳の記入や出欠入力等の省力化が進んだ。しかし、子ども一人ひとりに合わせた対応や保護者支援等の保育業務のほか保育事務が年々増加し、様々なことを兼務して担うため年間を通して多忙である。保育アプリのさらなる活用や保育事務の効率化できる部分を整理し、時間を生み出していく必要がある。集中して保育事務を行うためにノンコンタクトタイムが取れるようにしてきたが、午睡時間に会議や研修が入ることや朝夕の職員体制によっては時間が取りにくいことがある。
取組の方向性	① ICTを活用することにより効率化を図ると共に簡略化できるものを整理していく。 ② 常勤職員の役割を整理し、目的を共有した上で業務を分担する。多様な働き方のための体制づくりを行い、ノンコンタクトタイムが安定して取れるように取り組む。

## (3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

## ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実施施策	地域の子育て支援
現状と課題	こどもまんなか社会の実現に向け、地域の子育て家庭への支援をすることが求められている。子どもを取り巻く全ての人が、子どもや子育て中の方々を応援する意識を高めていくため、地域の中の保育所としてその役割を示していく必要がある。保育所開放「なかよし広場」や一時預かり保育の利用者数は減少傾向であるが、子育てに困難さや孤立感を感じる地域の子育て家庭への支援や育児相談の場として重要な役割を担っている。
取組の方向性	① 地域のニーズに合わせて一時預かり保育を推進し、地域の子育て支援を進める。 ② 保育所開放「なかよし広場」の在り方を検討し、相談支援を充実させる。

実施施策	小学校及び地域との連携推進
現状と課題	内中原小学校や近隣保育施設との交流が計画的に行えるようになった。5歳児交流だけでなく、互いに公開保育を実施する等、職員間の交流も進んでいる。「幼保小架け橋プログラム」の作成の段階には至っていない。 地域住民や近隣施設と連携して防災訓練や和太鼓演奏を実施し、交流を深めている。地域のイベントに参加したり自然や文化に触れたりすることで、地域資源を保育に活かすことができるよう取り組んでいるところである。
取組の方向性	① 小学校や近隣保育施設と連絡を密にし、幼保小連携を推進する。 ② 地域とのつながりの重要性を理解し、連携して交流活動を行う。

## イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	圏域の利用ニーズに基づく定員の弾力運用
現状と課題	入所希望は年度末に定員の120%に近い状況が続いているが、待機児童が減り、年度当初は0歳児の入所数が少なくなっている。年度途中に入所枠を出しても0,1歳児以外の入所はあまり見込めないため、委託費が減り運営に影響する。
取組の方向性	① 各種補助金や加算制度を活用していく。 ② 圏域の情報収集を行い、内部体制を調整して入所児童数を確保する。

実施施策	計画的な施設整備と経費の抑制
現状と課題	<p>建物は築後 27 年が経過し、所庭遊具や外回り、所内設備や厨房機器等についても経年劣化に伴う修繕や取替が必要な箇所が増加している。安全性を確保するため、点検を基にした整備を進めている。</p> <p>備品については、保管場所を明確にし、担当者が定期的にチェックすることで管理している。備品の取扱いやメンテナンスについて、全職員が正しく使用できるよう努めている。</p>
取組の方向性	<p>① 危険箇所を早期に発見できるよう定期点検を実施し、計画的な整備を行う。</p> <p>② 備品の管理を徹底して大切に扱うとともに、費用対効果の高い購入を検討し経費を抑制していく。</p>

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	施設ビジョンに基づいた運営
現状と課題	<p>組織として一人ひとりの意見に耳を傾ける姿勢を大切にしてきた。所内で話し合いを重ねることで地域に根差した保育所としての当所の役割を明確にし、少子化が進む中でも利用者のニーズを的確に把握して持続性のある保育所運営を行う必要がある。長期的な視点で施設ビジョンを掲げ、職員間で方向性をすり合わせながら取り組んでいく。個人情報適切な管理等、関係法令の遵守を徹底し、信頼性の高い保育所として堅実な運営の基盤となるよう取り組みたい。</p>
取組の方向性	<p>① 堅実な運営を継続していくため、施設ビジョンについて長期的な視点で話し合うことで職員が共通認識を持ち、具体化していくことができるようにする。</p>

実施施策	安定的な経営
現状と課題	<p>経営状況を職員会議や検討チームで共有し、全体に目が向くように取り組んできた。それに加え、保育政策の新たな方向性を理解し、制度改革の動向に応じて迅速に対応することで安定的な経営につなげたい。</p>
取組の方向性	<p>① 経営状況や制度改革の動向を法人本部及び職員間で共有し、安定的な経営を行う。</p>

## 3 目標利用率

事業名	定員	R7 年度 見込値	目標値				
			R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
保育所事業	90 名	115%	118%	118%	118%	118%	118%
一時預かり保育事業	-	1,900 人	2,100 人	2,100 人	2,100 人	2,100 人	2,100 人

## 4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
空調設備 (0 歳児保育室・ほふく室・事務室)	2,316				
空調設備 (2 階遊戯室・相談室)		1,951			
電解水生成装置				788	
タテ型冷凍冷蔵庫				835	
食器消毒保管庫				831	
食器洗浄機					1,936
空調設備 (4 歳児保育室・5 歳児保育室)					1,477
スチームコンベクションオープン			2,123		

## 5 修繕計画 (大規模修繕を除く。)

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
テラス修繕工事 (0 歳児保育室南側)	572				
保育室床張り替え壁紙張替え	844				
0 歳児床張り替え		605			

## 6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名称	執行見込額				
	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
(該当なし)					